

内藤 憲孝さん  
有限会社 イフ 代表取締役  
2004.11.26放送



障害を持った人や高齢者に限らず、誰にでも、やさしく使いやすい車の改造を手がける、帯広の福祉車両専門店・イフ。代表の内藤憲孝さんは、一人ひとりの要望を形にする、オーダーメイドの車の改造を目指しています。

「うちは、カタログショッピングじゃないですから、何が出来るだろうって選ぶ訳ではなくて、こういう風に出来ますかっていう漠然としたものから相談して欲しいです。そこから私達の持っている技術や経験を生かした提案をしています。やっぱり、一人ひとり違いますから、出来るだけ、使い勝手の良い改造を目指していきたいです」

福祉車両には、身体の不自由な人の運転をサポートする装置や、介護の送迎で使う車など、さまざまな種類がありますが、内藤さんは、障害の有る無しに関わらず、もっと、使いやすい車の改良で、快適な車社会をつくりたいと考えています。

「そんなに大掛かりなものでもなくても、例えば、シートの高さを調整することで安全な視界が確保され、安心して運転に臨むことができます。他にも、妊婦さんって、乗り降りが大変ですよ。普段使っている車に、手すりを付けてあげるだけで、妊婦さんにとってはとってもやさしい車に変身する訳です。ですから、こういう事出来ないの、あーいう事出来ないのっていうのを、言って頂きたいです」

内藤さんは、レーシングカーのエンジニアでした。来る日も来る日も車の性能をアップする仕事に追われていました。結婚、そして親との同居。忙しい日々のなかで思わぬ出来事が起きました。両親の介護という現実でした。内藤さんは、仕事と介護の両立に懸命でした。そんな時、ふと思いついたのが、イフのパートナーである木戸口 正次さんと話した将来の夢でした。

「もう10年も前になりますか、私達は、いろんな車の改造を手がけているが、車いすを積める車があってもいいよなって、そんな話をしていたことがありました。レーシングカーと福祉車両って相容れない部分がありますが、早く走りたいという人の夢をかなえるこ



とが仕事なら、もっと使いやすい車になったらいいなって思う人の夢をかなえるのも同じじゃないかと。人の夢をかなえることが自分の夢であり、活動の原点なんだと」

家族の介護を通して、多くの人を抱えている不便さを解消したいと、2004年3月、道内で始めて、福祉車両専門の会社を設立。車両の改造に関わる全てのことを受けることができることが当面の課題です。



「突然、家族が倒れて、何をどうしたらいいんだと。誰に相談していいか解からない部分がある、自分が実際に介護して感じたことです。技術を売り物にすることも大事ですが、いろんな手続きなどを含めた、皆さんの総合窓口になりたいというのが、今、自分達の置かれている立場と考えています」



およそ17年あまりに渡って培ったエンジニアの技術だけでは、気付かない点がいっぱいあると、内藤さんは、福祉の勉強を重ね、福祉用具専門相談員と福祉住環境コーディネーターの資格を取得。手づくりの整備工場には、バリアフリーのトイレを設置。いつでも、誰も、気兼ねなく訪れて欲しいという気持ちの表れです。

「イフという社名に込めた思い、それは、‘もしも、こうだったらいいな’とか‘もしも、こうだったらいいよな’とか、皆さんの思いや願いを少しでもカタチにしたいという気持ちを込めてつけました」

福祉は特別なものじゃないと言う内藤 憲孝さんの思い。それは、多くの人とつながり、その夢をかなえることです。

福祉車両のイフ  
帯広市西23北2 TEL : 0155-38-8380

